★海運・造船業界の求人動向（2017年1月現在）

【全体の動き】 積極的に採用を行う商社系海運会社に加え、外航海運会社が年間を通じた複数人の募集を計画するなど、一歩先を見越した人材採用の動きが出てきた。営業系の人材では、船舶運航管理や用船業務の実務経験が5年～10年求められる。工務監督は、海上経験に加え5年程度の陸上経験を期待する声が強く、採用年齢が下がってきている。一方で、海務監督は船長職経験者を優遇する傾向にあり、採用年齢の幅が広い。

【営業系-船舶運航管理、用船など】 外航海運会社では、実務経験5年～10年程度の船舶運航管理、用船経験者の求人が複数出始める。実務経験者以外では、外航船の乗船経験を持つ海技者を営業として採用するケースが増えている。シップブローカーも積極採用の傾向にあり、実務経験と高い英語力が期待されている。

【海技系-船舶管理、工務・海務監督】 工務監督は、海上経験（ただし一級海技士免状尚可）だけを求めるケースと、3～5年の海上・陸上双方の経験を求めるケースがあり、社内の年齢構成を意識した採用へと変化がみられる。海務監督については、一級海技士の資格を持つ船長経験者のニーズが依然として高く、なかでもLNG船の乗船経験を持つ人材への問い合わせが増えている。

【その他-船級、外資メーカーなど】 外資系船級協会では、電気や素材などの専門知識を持つ人材へのニーズが高まっている。また海洋開発・エネルギー分野で、海運・造船人材への問合せが少しずつ増え始めている。

＜情報提供元＞キャプラン株式会社　担当：佐々木

TEL：03-3497-9335　MAIL：marine@mail.caplan.jp